

むつごろう通信

9号

2006年

2月28日発行

逸見教授 日韓国際環境賞を受賞

逸見教授が代表の一人である日韓共同干潟調査団は、1999年に結成され、日本と韓国の干潟の生物や文化などを研究してきました。これまでの研究が認められ、第11回（2005年）日韓（韓日）国際環境賞を受賞し、記念の楯と賞金1万ドルが贈されました。この賞は、毎日新聞社・朝鮮日報社が毎年共同で、東アジア地域を中心とした環境保護・公害防止に優れた貢献をした個人や団体を表彰するものです。

氷河時代には、日本列島と朝鮮半島は陸続きで、台湾の西に大きな内海がありました。現在の有明海・八代海と黄海の生態系は、氷河時代の内海のそれを受け継いでいます。このため、大陸遺存種と呼ばれるアゲマキ・シオマネキ・ムツゴロウ・エツなど多くの共通種が、日本と韓国にはいます。したがって、韓国の干潟の研究は、有明海・八代海の干潟を理解する上でも重要です。

政創研プロジェクト研究に採択されました

平成17年4月に設置された熊本大学政策創造研究センターのプロジェクト研究に、内野センター長が代表者、逸見教授を中心メンバーとなった研究課題（平成17～19年度）「有明海・八代海の生物棲息環境の評価・保全・再生」が採択されました。

この研究は、生物相の解明と棲息環境のランク付けを基礎として、生物多様性の保全・水産資源の持続的利用・環境に調和した防災と開発事業を有機的に結合して政策提言を行うものです。

逸見教授は専門の底生動物を担当し、日韓でハマグリやミドリシャミセンガイなどを研究しています。韓国での研究成果が、有明海・八代海での研究に生かされることが期待されます。



退任のご挨拶：和田 哲

2005年9月末日をもちまして、沿岸域センター助教授を退任し、函館市にあります北海道大学大学院水産科学研究院に異動しました。在任中に携わらせていただいた研究指導、実習、公開講座、シンポジウムなどの貴重な体験を生かして、今後も海洋生物学の教育と研究に励んでいきたいと思います。わずか1年半の短い間でしたが、どうもありがとうございました。

公開講座「有明海・八代海を科学する」および体験実習を開催しました

一般市民を対象に、研究成果の公開および環境教育の充実を目的にした公開講座および体験実習を実施しました。平成17年10月5日～11月9日の毎週水曜日（計6回）に、沿岸域センターの教員と熊本県水産研究センターの木野世紀浅海干潟研究部主任技師およびルーテル学院大学の福田 靖教授が講師として、有明海・八代海の環境に関する最新の研究成果を分りやすく解説し、受講者とともに議論しました。受講者は20才から80才までと幅広く、毎回会場は満席で、質問や議論が活発に交わされました。

科技調シンポジウム 大盛況

文部科学省科学技術振興調整費研究の国内シンポジウム：「有明海の再生に向けて」～国・県・大学の試み～（科技調熊大研究グループと熊本大学の主催、国土交通省九州地方整備局、農林水産省九州農政局、環境省、水産庁および熊本県の後援）を、平成17年11月18日（金）に、熊本大学工学部百周年記念館で開催しました。磯部雅彦東京大学教授から「内湾の水環境の現状と課題」と題して示唆に富んだ基調講演をいただき、国・県および熊本大学で進めていく有明海の再生に向けた調査・研究の講演とパネル展示、最後に「有明海再生研究に期待するもの」のテーマで総合討論会を行いました。国・県などの行政や大学、一般市民の協同による再生への取り組みの重要性を確認し、次年度もシンポジウムを開催し、広く一般に有明再生事業を紹介していくことを決議しました。

一般、大学の研究者・学生、国・県・市の行政担当者、民間企業・コンサルタントなどから約300名が参加しました。



熊本県水産研究センター見学



船上実習（合津マリンステーション）

3大学シンポジウム in 熊大 二日間にわたり白熱しました

第3回熊本・佐賀・長崎3大学「みらい有明・不知火」シンポジウムを、熊本大学工学部百周年記念館で、平成17年10月28日～29日に開催しました。有明・八代海での潮流変動、赤潮、貧酸素水塊、動・植物プランクトン、底質変動、底生生物、干潟再生手法などさまざまな最新の研究成果が講演され、白熱した議論が交わされ、大変に実りあるシンポジウムとなりました。大学の研究者・学生、行政、民間、一般から約200名もの参加がありました。来年は佐賀大学で開催されます。



“人工なぎさ線”が完成！

むつごろう通信8号でお知らせしました、文部科学省の科学技術振興調整費重要課題解決型研究で取り組んでおります有明海再生の研究で、現地での実証試験の1つ「人工なぎさ線」が平成17年10月に熊本新港親水緑地公園横の干潟上に完成しました。海岸線の人工化などで失われた“なぎさ線”を回復し、連続した地形を造成して、生態系の連続性を創出し、土・水・大気の触れ合う場を回復することを目的にしています。定期調査を開始しておりますが、早くもゴカイや貝類などが棲みついてきており、今後の成果を大いに期待しております。また、その他の現地実証実験も開始され、それらの様子を紹介するために現地見学会を、平成17年10月22日に行いました。熊本新港で「人工なぎさ線」、「野鳥の池」や調査船「海輝」の見学とともに、玉名横島海岸での試験地をコースとして、2台の貸切バスが満員になる105名が参加しました。

シリーズ「有明海・八代海の生物」- 4

タイラギ

殻長が最大で30cmに達する羽簾(はぼうき)形の二枚貝です。水深約10mの砂泥底に生息しますが、干潟でも見られます。直径が最大で4cmになる貝柱は、高級食材として重宝され、すしネタ・刺身・フランス料理のオードブルなどに使われます。

有明海の二枚貝では、アサリに次ぐ重要な漁獲対象種でした。しかし、西部海域(長崎県)では1993年頃から稚貝が激減し、東部海域(佐賀・福岡・熊本県)でも1999年より大量死が頻発したため、現在ではほとんど漁獲されていません。現在市場に出回っているタイラギの多くは、八代海や香川県で漁獲されたもの、あるいは韓国産です。

逸見教授は、2000年より大量死を研究しています。これまでに、主に夏季に大量死



なぎさの景観



現地説明会

が発生し、成長が悪化した後には繁殖せず死亡することを明らかにしました。さらに、大量死の原因を、底泥の悪化(泥化や有害物質の堆積)とこれに伴って発生する貧酸素水塊と推測しています。



お知らせ

1. 第4回沿岸域環境科学教育研究センター講演会 「有明・八代海の再生・維持への研究」の開催

「有明・八代海の再生・維持への研究～沿岸域環境科学教育研究センターの活動～」のテーマで、下記の日程で開催します。当沿岸域センター教員による「有明海・八代海再生」に関する研究活動の発表会です。多数のご来場を期待しております。

日時：平成18年3月17日（金）13:00～17:20
場所：熊本大学工学部百周年記念館

熊本市黒髪2-39-1

講演題目：

13:10～13:50

「有明海・八代海の生物と漁業」

逸見泰久（生物資源循環系解析学分野教授）

13:50～14:30

「養殖ノリ色落ちのしくみを探る遺伝子研究」

瀧尾 進（生物資源保全・開発学分野教授）

14:30～15:10

「有明・八代海環境再生と防災との調和」

滝川 清（水・地図環境科学分野教授）

15:20～16:00

「地球科学から観た有明海・八代海の環境」

秋元和實（水・地図環境科学分野助教授）

16:00～16:40

「有明海の環境に対する周辺地域の人々の意識構造」

鈴木 武（沿岸域社会計画学分野 客員教授）

16:40～17:20

「野鳥の池の順応的な管理を目指した研究」

古川恵太（沿岸域社会計画学分野 客員助教授）

参加費：無料

お問い合わせ：

熊本大学学術研究協力部研究協力課（井上、石橋）

TEL 096-342-3143（直通）

2. 著書紹介

・月刊海洋、37巻、11号「現在と過去の無酸素環境における地球科学」2005年11月（海洋出版、2,100円）

有明海において、有機物付加を指標できる底生有孔虫 (*Trochammina cf. hadai* Uchio) について、秋元助教授と滝川教授が執筆しています。

・月刊海洋、38巻、1号「八代海II」2006年1月（海洋出版、2,100円）

自然科学研究科の中田晴彦先生が中心になって八代海北部の底質中の重金属の分布について、秋

元助教授と滝川教授が中心になって八代海北部の底質分布の特性についての論文が掲載されています。

・有明海表層堆積物画像データベース2（NPO みらい有明・不知火、沿岸域センター）

秋元助教授が中心になって2004年に出版した「がらかぶが見た有明海の風景」の第2版です。今回のデータベースには、出版後に調査した熊本市沖の表層堆積物の画像および2005年までの水質記録が収録されています（CD1枚）。発行は、平成18年3月30日（木）の予定です。国、地方自治体、研究・教育機関、企業でご希望があれば、滝川教授（takikawa@gpo.kumamoto-u.ac.jp）あるいは秋元助教授（akimoto@sci.kumamoto-u.ac.jp）までご連絡ください。

3. 平成18(2006)年度公開実習の予定

（合津マリンステーション）

(1)「干潟観察会」(1回)・「うみほたる観察会」(3回)
(上天草市と共に7・8月に計4回実施、日時未定)。

どちらの観察会も上天草市松島町で行います。
詳細は、合津マリンステーション（0969-56-0277）
または天草ビズターセンター（0969-56-3655）にお問い合わせください。

(2)「海の生きものを知る一天草の海の秘密」

（熊本大学一般公開実習）

高校生以上を対象に、7月29日（土）午後1時～30日（日）午後2時（1泊2日、マリンステーションに宿泊）。

ウミホタルやハクセンシオマネキなどの観察、海岸動物の採集と観察、実習船を使ってのプランクトンの採集やイルカの観察を行います。合津マリンステーションに集合。募集人員は、25名。

(3)「公開臨海実習：行動生態学実習」(大学間単位互換実習)

大学生、8月5日（土）～11日（金）(6泊7日、合津マリンステーションに宿泊)、シオマネキとヤドカリ類の行動生態学の講義と実習（野外観察、調査、室内実験）を行います。単位認定については各大学の事務で確認して下さい。募集人員は12名。

連絡先：〒860-8555 熊本市黒髪2丁目39番1号

熊本大学沿岸域環境科学教育研究センター

事務連絡先：熊本大学学術研究協力部研究協力課

TEL096(342)3143 FAX096(342)3149

HP：<http://www.kumamoto-u.ac.jp/center-for-marine/top.htm>